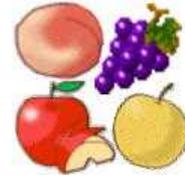


# 平成31年度 果樹情報 第3号

(平成31年4月25日)

福島県農林水産部農業振興課



## 1 気象概況（4月中旬：果樹研究所）

この期間の平均気温は、3半旬が8.7℃で平年より2℃低く、4半旬が13.4℃で平年より1.9℃高く経過しました。また、この期間の降水量は23mmで平年の72%でした。

## 2 土壌の水分状況

4月19日時点の土壌水分（pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水）は、深さ20cmで2.0、深さ40cmで1.8、深さ60cmでは1.7となっており、ほぼ適湿状態にあります。

## 3 発育状況（果樹研究所4月22日現在）

- (1) ももの満開は、「あかつき」、「ゆうぞら」とも4月18日でそれぞれ平年より2日及び3日早くなりました。
- (2) なしの満開は、「幸水」が4月22日、「豊水」が4月19日でともに平年より4日早くなりました。
- (3) りんごの開花始は、「つがる」が4月22日で平年より4日早く、「ふじ」が4月24日で平年より2日早くなりました。
- (4) おうとう「佐藤錦」は、開花始めが4月19日、満開が4月25日でともに平年並でした。
- (5) ぶどうの発芽は、「巨峰」が4月18日で平年より1日早くなりました。

表1 開花状況

樹種	品種	開花始			満開		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	4月12日	4月14日	4月3日	4月18日	4月20日	4月10日
	ゆうぞら	4月12日	4月16日	4月3日	4月18日	4月21日	4月10日
なし	幸水	4月18日	4月21日	4月11日	4月22日	4月26日	4月16日
	豊水	4月14日	4月17日	4月8日	4月19日	4月23日	4月12日
りんご	つがる	4月22日	4月26日	4月15日	未	5月1日	4月22日
	ふじ	4月24日	4月26日	4月17日	未	5月1日	4月22日
おうとう	佐藤錦	4月19日	4月19日	4月10日	4月25日	4月25日	4月19日

注) 平年値は1986～2015年の平均値（おうとうは1994～2015年）。

表2 発芽・展葉状況

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
ぶどう	巨峰	4月18日	4月19日	4月9日	未	4月25日	4月20日

注) 平年値は1988～2015年の平均値。

## 4 栽培上の留意点

### (1) 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、耐凍性が最も弱くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。

また、最近の気温の上昇に伴い、各樹種の生育は平年並からやや早く推移しています。仙台管区气象台発表の1か月予報によれば、寒気の影響を受けやすく、向こう1か月の気温は低いと見込まれているため、生育ステージごとの安全限界温度を下回る温度に遭遇するおそれがある場合には、速やかに防霜対策を実施しましょう。

(各樹種の生育ステージ別安全限界温度は、下記の技術資料を参照)

「作物別凍霜害及びびょう害技術対策（平成31年3月18日）」

URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/317007.pdf>

事前対策としては、防霜資材の準備を徹底するとともに、地温の上昇を図るため、下草は5cm程度にこまめに刈り込みましょう（地際部まで刈ると放射性物質をまきあげのおそれあり）。また、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保しましょう（乾燥条件は気温の低下が著しいため）。

なお、降霜被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実確保を図りましょう。特に、花粉が無い若しくは少ない品種においては、注意が必要です。

### (2) 人工受粉

開花期が低温や強風、乾燥条件で経過すると結実が劣る場合があるので、このような条件下では人工受粉をより丁寧に行いましょう。

人工受粉の際に、花粉を石松子などで増量する場合には事前に発芽率を確認し、発芽率に応じた希釈倍数としましょう。なお、発芽率30%以下の花粉は希釈しないでそのまま使用します。受粉期間中は、花粉をできるだけ涼しい場所（冷蔵庫が望ましい）に密封して保管し、花粉発芽率の低下を防ぎましょう。

## 5 病虫害防除上の留意点

### (1) 病害

#### ア リンゴ黒星病

本病の重要な防除時期は開花期前後であるため、昨年本病の発生が認められた場合は、開花直前に本病に有効なDMI剤のいずれか（県病虫害防除指針参照）を使用して被害防止に努めましょう。なお、DMI剤は耐性菌が発生しやすいため、使用の際は注意してください。

#### イ モモせん孔細菌病

重要な伝染源である春型枝病斑の発生が確認されています。本病は、発生初期の密度抑制が重要であり、春型枝病斑は葉や果実への伝染源となるので定期的にはほ場を巡回し、見つけ次第せん除して適切に処分しましょう。また、落花10日後にせん孔細菌病防除剤を使用しましょう。

#### ウ ナシ黒星病

本病の重要な防除時期は開花期前後であり、既に前年の罹病落葉からの子のう胞子の飛散が始まっているため、開花直前と落花直後の散布間隔を10日以上あけずに効果の高いDMI剤（県病虫害防除指針参照）を十分量散布しましょう。

なお、DMI剤は耐性菌が発生しやすいため、使用の際は注意してください。

また、本病が花そう基部に発病している場合は、中・長果枝の花芽の鱗片が脱落せずに付着しているため、見つけ次第除去して適切に処分しましょう。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

モモハモグリガ越冬世代成虫の誘殺盛期は4月4半旬であると考えられるため、第1世代幼虫の防除適期は4月6半旬と推察されます。ミツバチ等の導入園では巣箱回収後、速やかに防除を行いましょう。

イ ハマキムシ類

今後の気温が平年並に推移した場合、リンゴモンハマキ越冬世代成虫の誘殺盛期は5月4半旬と予測され、リンゴコカクモンハマキも同時期と予想されます。

複合交信かく乱剤は、ハマキムシ類越冬世代成虫の発生前と予想される5月2半旬頃までに設置しましょう。

ウ カメムシ類

カメムシ類（クサギカメムシ）の越冬成虫による被害は幼果の段階から発生する場合があります。山間部や山沿いの果樹園では、カメムシ類の飛来状況をよく観察し、集団的な飛来を確認した場合には速やかに防除を行いましょう。

表3 果樹研究所における防除時期の推定（平成31年4月19日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期
2℃高い	4月19日	4月26日	5月13日	5月27日
平年並み	4月20日	4月27日	5月20日	6月4日
2℃低い	4月20日	4月30日	5月28日	6月13日

注) 起算日：3月1日（演算方法は三角法）

**病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>